

5.2.2 学生の受け入れ

【評価項目 5-0-1】 入学者受け入れ方針等（門戸開放）

（必須要素）他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況

【評価項目 5-0-2】 学生募集方法、入学者選抜方法

（必須要素）大学院研究科の学生募集の方法、入学者選抜方法の適切性

【評価項目 5-0-3】 入学者選抜の仕組み（学内推薦制度）

（必須要素）成績優秀者等に対する学内推薦制度を採用している大学院研究科における、そうした措置の適切性

【評価項目 5-0-4】 入学者選抜方法の検証

（必須要素）各年の入試問題を検証する仕組みの導入状況

（選択要素）入学者選抜方法の適切性について、学外関係者などから意見聴取を行う仕組みの導入状況

【評価項目 5-0-6】 「飛び入学」

（必須要素）「飛び入学」制度の運用の適切性

【評価項目 5-0-8】 社会人学生の受け入れ

【評価項目 5-0-9】 科目等履修生、聴講生等

（選択要素）科目等履修生、聴講生等の受け入れ方針・要件の適切性と明確性

【評価項目 5-0-10】 外国人留学生の受け入れ

（選択要素）外国人留学生の受け入れ状況

（選択要素）留学生の本国地での大学教育、大学前教育の内容・質の認定の上に立った学生受け入れ・単位認定の適切性

【評価項目 5-0-11】 定員管理

（必須要素）収容定員に対する在籍学生数の比率および学生確保のための措置の適切性

<2003年度に設定した目標>

1. 経済学部からの飛び級に加えて、他学部や他大学からの飛び級も認める。
2. 社会人学生に対する試験回数を増やすとともに、試験範囲を明確化する。
3. 経済学を学んでいない受験生をも想定して、試験問題の作成に配慮する。
4. 外国人留学生については、英語による試験と英語による面接を実施する。
5. 国際機関との協力の下で、外国人留学生の受け入れを積極的に推進する。

（現状の説明）

1. 経済学研究科の2005年度学生募集方法（入学試験は2004年度に実施）、入学者選抜方法は以下のとおり。

1) 博士課程前期課程 一般（正規学生）

第1次（9月）入試、第2次（3月）入試とも試験科目は英語Ⅰ・Ⅱ、論文Ⅰ・Ⅱ、口頭試問。

2) 博士課程前期課程 エコノミスト・コース（正規学生）

11月入試のみ。試験科目は筆記（小論文）、面接。

3) 博士課程前期課程 外国人留学生（正規学生）

第1次（9月）入試、第2次（3月）入試とも試験科目は英語、論文（日本語）、口頭試問（日本語）。

4) 博士課程後期課程 一般（正規学生）

3月入試のみ。試験科目は英語Ⅰ・選択科目、論文Ⅰ・Ⅱ、口頭試問。

5) 博士課程後期課程 外国人留学生（正規学生）

第1次（9月）入試、第2次（3月）入試とも試験科目は英語、論文（日本語）、口頭試問（日本語）。

また、前期課程と後期課程の学生数についての動向はそれぞれ以下のようにになっている（各年度5月1日現在）。

2001年度	前期課程76名（5名）	後期課程12名（1名）
2002年度	前期課程53名（0名）	後期課程17名（1名）
2003年度	前期課程36名（3名）	後期課程20名（2名）
2004年度	前期課程36名（3名）	後期課程17名（0名）
2005年度	前期課程35名（1名）	後期課程13名（0名）

（ ）内の数字はそれぞれ外国人留学生の内数

本学経済学部の学生で、成績優秀者（席次で上位99番以内の学生）に対しては筆記試験免除という特典を与えている。この制度を利用する学生は毎年数名見られ、入学後も研究に対する真剣な姿勢は維持できている。

飛び級については、本学経済学部3年生がこの制度を利用することができる。実際にこれまでに3名の学生が飛び級で進学している。しかし、制度的に他学部や他大学からの飛び級はまだ認めていない。

社会人学生（エコノミスト・コース）に対する試験回数を2006年度入試より年1回（11月末）から年2回（11月末と2月末）に増やすとともに、分野ごとにガイドラインを作成して試験範囲を明確化することを決定した。以前は試験の難易度が不透明であったが、キーワードを明示すると同時に出題内容を絞り込むことにより、その点を改善する。

経済学を学んでいない受験生をも想定して、具体的にテキストを指定した上で出題の範囲を明確化するなどの措置をとることによって、試験問題の作成に配慮することが必要と考えられるが、まだ具体的な措置は検討していない。しかし、社会人学生と同様に一般学生に対してもガイドラインを作成して、受験しやすくする方向を検討する。

以下に示すように他大学・他大学院からの受験生は決して多くないが、合格している学生も見られる。特に、門戸を閉ざしているわけではないが、PR活動を積極的に展開してきたわけでもない。外国人留学生に対しては英語による試験と面接を実施する方向で検討を開始する予定である。

<他大学からの受験者数>

一般	2003年度	受験者3名	合格者1名
	2004年度	受験者5名	合格者3名
	2005年度	受験者5名	合格者4名
エコノミスト・コース	2003年度	受験者4名	合格者4名
	2004年度	受験者4名	合格者4名
	2005年度	受験者6名	合格者3名

<他大学院からの受験者数>

一般	2003年度	受験者2名	合格者1名
	2004年度	なし	
	2005年度	なし	
エコノミスト・コース	2003年度	なし	
	2004年度	なし	
	2005年度	受験者2名	合格者1名

2. 他大学・他大学院からの学生を増やすために、2004年度から大学院の入試について過去の修士論文や博士論文に関する情報を対外的にホームページで公開する措置を講じている。入試説明会を開くことも考慮する。
3. 収容定員に対する在籍学生数の比率は、2005年5月1日現在で前期課程0.58、後期課程1.44となっている。

(点検・評価の結果)

1. 現実には過去の実績と比較すると前期課程の入学者数は減少傾向にある。その理由の一つが、公認会計士試験制度の変更など客観的制度的変更があるものの、今後、設定された目標を実現していくことが求められる。魅力ある大学院としてカリキュラムを改革する必要がある。
2. 現在、社会人学生（エコノミスト・コース）についての改革を具体化している。試験回数が11月末1回だけであったために、人数の確保が困難であった。
3. 一般学生の人数確保はPR活動によって可能であるが、試験内容の見直しという点からも再考する必要があると認識している。経済学の基礎的知識を確認する出題形式が妥当ではないかという議論を進めていく。

(改善の具体的方策)

1. 定員数を可能な限り満たすために、研究演習などを通して経済学部生へのPRを図っていく。また、他学部の学生にも経済学研究科に関心を持ってもらえるように、授業の公開などの工夫をしていく。
2. 大学院主催のワークショップを大阪、神戸、西宮、宝塚などの都心部で開催し、経済学研究科の存在価値を学外にも紹介し、学術研究の魅力を幅広く知ってもらう。
3. 会社内部での人事異動の影響から年内の受験が避けられていた点を考慮して、2006年度入学生のために2005年度から、年度末である2月末にも試験を実施することが決まった。